

Title	家事分業：一収入家族と共働き家族の比較
Author	上子, 武次
Citation	人文研究. 15 卷 7 号, p.661-692.
Issue Date	1964
ISSN	0491-3329
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学文学会
Description	

Placed on: Osaka City University Repository

家事分業

— 一収入家族と共働き家族の比較 —

上 子 武 次

まえがき これは市大社会学教室が一九六三年七月上旬に行った学生実習調査の中間報告である。(調査目的) ……共働き女子教員と教員の家庭主婦の生活と意見を比較して共働きの影響を明らかにし、ひいては家族構造の決定因素解明に資する。(調査項目) ……生活時間。性差、共働きについての意見。家事分担と家事決定の構造。共働きの問題点など。この報告はそのうち家事分担の問題だけを扱う。(調査対象者) ……長野県旧上伊那郡の小、中、高校に勤務する共働き女子教員全員(若干の遺漏あり。その家族を以て共働き家族と呼ぶ)とその対照グループ(共働き女子教員各人につき同一校勤務の教員一名の家庭主婦選定。その家族を以下一収入家族と呼ぶ)拒否一、集計不能四を除き前者六五、後者六七。(対象者の家族型)

	A	B I	B II	C	計	A…夫、妻	B I…夫、妻、子供(学令前の子供あり)
共働き家族	17	15	11	22	65	B II…夫、妻、学令以上の子供	
一収入家族	9	32	12	14	67	C…夫、妻、子供以外の成人を含む	

この報告ではA, B I, B IIの家族に考察を限定。

(調査方法) ……専攻学生が対象者一人当り一—二時間面接。

本論の頁数が制限をこえたのでまえがきは最少限にとどめた。調査対象、調査方法の詳細や本調査の限界などについては調査結果の他の部分を報告する際に述べる。

一、一収入家族(対照グループ)の家事分業

家事二〇項目について担当者とその担当程度をたずねた。専(ひとりで担当)主(主としてまたはたいてい担当)補(補助的にまたは時々担当)協(同程度担当)各(各人自分の分だけ担当)に分けて回答を求めた。

一収入家族(ただしさきに断つたように、ここではそのうち核家族だけを問題にする)における夫婦の家事担当状況を示すのが第一表である。(家族型別の表も用意したが紙数の関係でのせない。ただし家族型別分析は行う)対象家族数が小さいこと、また専・主・補・協・各など家事担当程度の区分の信頼性がどうしても完全ではあり得ないことからしてこの表の数字をそのまま受け取ることとはできないが、だいたいの傾向を読み取ることはできるだろう。この表は夫・妻の家事担当関係の観点からみた場合、家事には表に区分線によって示したようなかなりはっきりした領域区分のあることを示している。そしてその領域区分は子供の有無や、学令前の子供の有無といった夫・妻の家事担当関係に最も大きな影響の考えられる相違によってさへ実際にはほとんど影響されていない程度に一般的である。

A、妻の専担領域…(2) せんたく(3—1)炊事(3—2)食後の片付け…ほとんどの妻がひとりで担当している領域。家族型Bの項目(3—2)以外のすべての家族型、項目において妻の八一—九三%が専ら担当し、九五—一〇〇%が専らまたは主として担当、一〇〇%が専・主・協の程度に担当しており、協力担当の夫婦は〇—六%にすぎず、補助的に担当する妻にいたっては皆無である。

この事実の反面は夫の参加程度が極めて低いことである。この領域の項目を専らまたは主として担当する夫はどの家族

型にも一名もなく、すべての家族型を通じて、協力担当する夫婦が〇—六%、補助担当する夫が〇—一一%、補助と協加合せてともかくも参加している夫が〇—一一%あるにすぎない。

この領域は最も明白に他から区別された領域である。夫婦の分担関係が専担率・専主担率・協力率・補担率・参加率のすべてについて、三項目がきわめて類似している。ただそのうち食後の片付けにおける妻の専担率が他の二項目におけるよりも幾分低い。

B、妻主夫従の領域(Ⅰ)……(9—1) 乳幼児食事の世話(9—2) 乳幼児排泄の世話(1—1) 屋内掃除(6—

1) 食料買物(6—2) 日用品買物。これらの項目中(9—1)と(9—2)はⅠ型だけに關係する。

この領域と次のC領域とが妻が主として担当し夫がそれを助けている領域。BCの区分は妻と夫の担当程度差による。開きはBにおいて大きくCにおいて小さい。

どの家族型においても妻のおよそ六〇%台ないし七〇%台がひとりでこの領域を担当し、八〇%台ないし九〇%台がひとりまたは主として担当し、一〇〇%が(6—1)を除くすべての項目に参加している。

反面夫の方は(6—1)を夫が専ら担当する事例がA型とⅠ型に各一つあるだけ、専らまたは主として担当する夫も(6—1)にA型Ⅰ、BⅠ型2、(6—2)にⅠ型1あるだけにすぎない。核家族全体についてみれば(6—1)を専担して

いる夫が三・八%、専らまたは主として担当している夫が五、七%、(6—2)を主として担当している夫は一、九%にすぎない。ただ妻と協力して担当する夫が総数の五—九%あり、また妻を助ける夫がBⅡの(6—1)(6—2)を除き一〇%台ないし二〇%あって、ともかくも遂行に参加する夫が、これもBⅡ型の(6—1)(6—2)を除き二〇%台ないし三〇%台に達する。

A領域と比べた場合、(1)妻の専担率はるかに低い。(2)夫の補担率はるかに高く、したがって参加率もそれに応じて高い。(3)協力量がわずかに高い。

C、妻主夫従の領域(Ⅰ)……(9-3) 乳幼児の衣類着脱(9-7) 子供の医療(4) 風呂をわかす(1-2) 屋外掃除(5) ふとんのあげおろし(8) 市町村役場、郵便局など社会機関との交渉。

すでに述べたようにこれも主として妻が担当し夫がそれを助けている領域であるが、妻と夫の担当程度の開きがB領域におけるよりも縮まっている。妻の専担率はBよりも一段と低くなり、家族型別・項目別区分においても一二の例外を除き三〇%台―六〇%台、核家族総数については四〇%台―五〇%台となり、専主担率も六〇%台―八〇%台にさがっている。ただし妻の参加率についてはA・B・C領域間にほとんど差がない。

反面協力率はA領域からB領域へ若干高まったのがC領域にいたってさらに今少し高まっており、(協力率六〇%台が多い) またA領域において皆無、B領域にも無きにひしかった専担ないし専主担する夫が、(9-3) (9-7) 以外の四項目すべてにおいて少数ながら見られ、妻を助ける夫のパーセンテージもB領域に比べてわずかながら増大し、これらの増大が合して夫の参加率をB領域における二〇%台―三〇%台からだいたい三〇%台―五〇%台に押し上げている。

要するにB領域との主要な相違点は(1)妻の専担率の低下、(2)協力率及び夫の補助率、ひいては夫の参加率の増大にある。ただしB領域C領域間の相違はA領域からF領域までの区分間の相違のうち最も不明確である。またこのC領域内の諸項目の家事分担関係は他の領域におけるほど等質的でない。少くとも夫の担当程度の高低によってその比較的低い(専主担する夫の皆無な) (9-3) (9-7) と比較的高いその他の項目の二グループに分けられる。さらに後のグループに属する四項目の夫婦分担関係も家族型別の相違が大きい。

D、協力領域(Ⅰ)……(9-4) 子供のしつけ、(9-5) 勉学指導(9-6) 話し相手。家族型BⅠにのみ関係。妻の専担率が更に低下して、核家族全体について、またBⅡ型の(9-5) (9-6) を除き二〇%台になっている。専

主担率もおよそ四〇%から五〇%強までに低下。逆に夫の担当程度は著しく増大。特に協担率の増大が大きくBⅠの(9-5) (9-6) を除き五〇%内外に達し、主としてその結果夫の参加率もおよそ七〇%台へと飛躍的に増大。要する

にC領域との主な相違点は(1)妻の専担、専主担率の低下、(2)協力率の著しい増大、(3)その結果としての夫の参加率の著しい増大にある。それでも夫の専担、専主担率が妻にくらべはるかに低い点、この領域も妻主夫従ではあるが、夫の協力率、参加率の高さからみてこれを協力領域と性格づけるのは、家事全体における夫婦の分担関係の様相に照して相対性格付けとしては許されるだろう。

E、協力領域(Ⅱ)：(9—8)遊びに連れて行く。(6—3)耐久消費財購入

妻の専担率、専主担率がさらに著るしく低下して前者はだいたい一〇%以下、後者は一〇%台ないし二〇%台となる。

反面夫の特に主担率が全般的に増大し、専担率、専主担率は夫妻の間にはっきりした差がない。協力率がD領域よりもさらに増大し、BⅡ(6—3)を除き五〇%台—八〇%台に達している。その結果参加率についても夫婦の間に差がなくなり、れも九〇%台に達している。(ただしBⅡの妻だけは低い。)D領域との相違は(1)妻の専担、専主担率の低下、(2)夫の主担率の増大、(3)協力率の増大であり、この領域の特色は(1)夫婦の専担、専主担率の同等なこと、(2)協力率の高いことにある。

F、夫主妻従の領域：(7)家屋・家具の修理。

専担、専主担、参加のすべての率において夫が妻をはるかにしのぐ唯一の項目。この事はすべての家族型に共通していてこの型の一般性を示す。ただし妻も主として補助、協力の形で参加している。

以上に記した領域区分は夫妻の項目別家事担当程度を、夫総数の何%、妻総数の何%が専担、主担、……しているかという尺度で測定し、それを分類根拠とした区分(ただし協担については各家族について調べた)、どこまでも夫一般、妻一般の担当程度を根拠にした区分であったのに対して第二表は各家族における家族分担を個別に調べそれを類型化したものである。(家族型別の表も用意したがのせない。家族型別分析は行う。)第一表第二表は同一の資料からつくられたものであり、密接に関連していて一方から他方をほぼ推定することができるけれども、原理的には別物である。

第二表は質問項目(2)(3-1)(3-2)のグループ、(1-1)(6-1)(6-2)のグループなどききにA-Fに区分された家事項目グループ間に夫妻の家事分担類型の頻度について識別できる相違があるのを示す事によって、夫妻別担当度の観点から構成された既述の領域区分が夫妻の家事分担関係の観点からみても有効な区分であることを証明している。ただしこの領域区分の本質も名称も、それが元来は夫一般及び妻一般それぞれの家事担当程度を視点とした領域区分であるために、各家族の個別的な家事分担類型の視点からは十分適切な区分とは云えない。ADEの三領域についてはそれぞれ妻専、協力、協力の分担類型が六つの類型中最大の比率を占めており、その区分及び名称が分担類型の視点からの領域区分としても通用するが、BC(いずれも夫主妻従)の両領域でも妻専の類型が最大の比率を占め、F(夫主妻従)でも夫主妻補の類型ではなく夫専の類型が最大比率を占めるからである。ただ複数の視点から複数の家事領域区分を設定した場合の操作の煩雑なこと、またこの場合可能な二つの分類が相互に類似しており少くとも両種の区分間に交錯がみられないこと、(BCDが分担類型の視点から一つにくくられるという違いがあるだけ。)またこの二種の区分のうち既述のものの方が弁別力が大きい(その方は六区分、他は四区分)ことからしてここではその領域区分だけにとどめる。

第二表はこのように第一表と共に家事の領域分化を明らかにする効用をもつほかに独自の効用をももつ。それは各家事項目及び各家事領域について、家事分担形式が家族間にどの程度共通であるか、家族差がどの程度あるかを示し、ひいてはどの程度制度化されているかの推定を可能にする。第二表の X^2 値(妻専…夫専の五類型の頻度から計算。五類型に均等分散の場合は X^2 は0、分散度小さいほど X^2 値大)から明らかのようにA領域の分担形式の家族差が最も小さく、B領域がこれに次ぎ(C領域の(9-7)がそれに加わる)、F領域及びD領域の(9-5)の家族差が最大であって他はその中間に位する。家事領域区分の要約 夫妻別担当程度・夫妻の分担形式・その家族差という三つの視点からみた家事領域区分の性格を要約する。

A 領域……ほとんどの妻がひとりで担当している領域。当然家族差ほとんどなし。

B 領域……妻の六―七割が専担、九割前後が専主担、夫の一―二割が補担、一割以下が協担するにすぎないという意味で高度に妻主夫従。ただし分担類型は妻専が六―七割を占め頻度最大。

C 領域……妻の四―五割台が専担、六―九割台が専主担。夫の参加率は五割以下、それも補担協担が主である点やはり妻主夫従であるがその開きが縮まっており低度に妻主夫従。ただしここでも妻専が最大の分担類型。家族差はかなり大きい。

D 領域……妻の四―五割台が専主担、三―五割台が協担、参加率一〇割に近いのに対して夫の参加率は七割台、その大部分が協担または補担であってやはり妻主夫従であるが差は一そう縮まり、また協力型が最大分担類型である点で協力領域。家族差はかなり大きい。

E 型……夫妻の担当程度がどの担当型についてもほとんど同等でありまた分担形式では協力型が過半を占める点で高度に協力的な領域。家族差はかなりある。

F 領域……夫の専担、専主担が妻より大きく、分担形式も夫専が最も多い。家族差はきわめて大きい。

家事の領域区分で注目すべき事は、普通育児として一括されている項目がここでは複数の領域に区分される事である。学令以前の乳幼児の世話と年長の子供の世話は性格を異にするためである。

家事担当程度、分担形式のいずれからみても、六領域中四、二〇項目中一七まで妻が主要な担当者であって、夫が主担当者であるのは一領域一項目にすぎない。この事、また各家事領域における分担関係を説明する仕事が残るが、家事分担の決定因素の問題は、一收入家族と共働き家族の家事分担比較の後に、その基盤に立って扱うのが適当であろう。

家族型間の相違 さきに述べたような理由からして、家族型間の差異も顕著なもの、一貫性あるものを取上げるととどめる。

第一にA、BⅠ型に比べてBⅡ型の妻の専担率が小さく夫の参加率が小さい。妻の専担率が相対的に小さい事は特に(3—2)(5)において甚だしいが、その他(6—1)(8)を除くすべてのABC領域項目にあてはまる。夫の参加率が小さい事は特に(6—1)(6—2)にはっきりしているが、AB領域の全項目及びC領域の(8)にあてはまる。その説明は容易である。A型には子供なし。BⅠ型三二家族中二九には学令前の子供のみ、二家族は学令前の子供と七才児、一家族は学令前の子供と八才児。それに対してBⅡ一二家族中一〇には一一才以上の女兒、残る二にも一一才以上の男児があり学令前の子供は皆無。したがってBⅡ型の妻は家事遂行の上で現実に子供の助力をかなり得ており、(統計省略)夫は妻を助ける必要が少い。

第二の相違点は(9—5)についてBⅠに比べBⅡの妻の専担率小さく夫の主担率大、(9—8)について妻の専担率小、夫の専主担率大な事である。これもBⅠ型の子供の大部分が学令前であるのにBⅡ型の子供の大多数が中学生以上であるという上述の事情によって説明できる。

二、共働き家族の家事分業

共働きしている核家族全数の夫妻別家事担当状況を示すのが第三表、家事分担関係を示すのが第四表である。(家族型別の表は紙数がないためのせない。ただし家族型別分析は行う。)以下では第一表と第三表、第二表と第四表を比較して、一収入家族と共働き家族の夫妻別家事担当程度、家事分担類型及び家事領域区分の相違を明らかにし、さらにそれを基盤として家事分担の説明、その決定因素の追求に進みたい。ただし比較ないし相違と表現したが、厳密には一収入家族における家事分担状況を基準とし、共働き家族の家事分担状況がそれからどれだけ逸脱しているかを見る。アメリカ社会について「母の家庭外就職はもはや逸脱的行為でなく家庭外に職をもたない母の方がむしろ逸脱的となっている」^①と述べる学者や、アメリカ家族はすでに家父長家族からcompanionship家族の段階を経て現在colleague家族に移っており、共働きで

あること colleague at work がこの型の家族の本質をなすと考える学者もあるが、共働き家族がなお少数グループであるため、また長い過去にわたって家庭外に働く妻が例外であったため、夫が provider であることが事実としても規範としても支配的であるという多数学者の説がアメリカ社会についても真実に近い。少くとも日本社会では、特に家事分業については、一收入家族のそれを正常基準、共働き家族のそれを逸脱形態とみる方が、それぞれの形態をとる家族数の大小の点、また制度化、規範化の程度の点からみて適当であろう。

夫妻別家事担当程度における逸脱 共働き夫婦の家事担当程度が一收入家族のそれからどれだけ増減しているかをみたのが第五表である。(家族型別の表は省略。ただし分析は行う。) 第一、第三、第五表の比較から次の事が明らかになる。

(妻の家事担当) 全般的に妻の家事担当がひどく低下する。参加率の低下はさほどでないが、参加の質の低下がひどい。専担率が大きく低下し、代りに担当度の低い主担、協担、補担の率が増大している。要するにそれぞれの家事項目についてひとりで担当する妻が甚だしく減り、夫または子供の協力、助力を得て担当する妻がふえ、また補助的にも参加しない妻も幾分ふえている。

次に領域別、項目別に見る。右の意味での妻の担当程度の低下はABC領域において大きく、DEFの領域において小さい。この事は妻の担当程度の領域差、また夫の担当程度の領域差を小さくする。妻の担当程度低下の領域差をいま少し詳しく見る。専担率低下の度合はだいたいABCDE(FはDに近い)の順に小さく、専担率の領域差を一收入家族の場合よりもはるかに小さくしている。A領域では専担率の低下が著るしいが代りに主担率が増大して結局七割前後が専担し参加率は相変わらず一〇〇%またはそれに近い。B領域特に(1-1)(9-1)(9-2)の項目では専担率がA領域とほぼ同程度低下しているのに主担率がさほど増加せず代りに協担率が大幅に増加している。担当度の質的低下が大きいわけである。C領域では専担率の低下はAB領域ほどではないが、主担率も(9-3)(5)以外ではABの場合とは逆に低

下しており、専主担率全体としての低下はA Bにおけるよりも大きい。そして(9-7)(5)(8)では主として協力率、(4)では補担率、(1-2)では協力率と補担率が上昇している。(9-3)(4)(1-2)では参加率が一〇%以上減少している。DEF領域の妻の負担率低下はA B C領域に比べかなり小さい。

次に家族型間の相違を見る。(表省略) A型とB I型の妻担当度の低下の主な相違点は第一にA領域でB I型の専主担率の低下がはるかに小さい事第二にB領域でB I型の協担率増大がはるかに大きいことである。

B II型の専担率低下はA型B I型に比べて(6-3)(7)を除き著しく小さい。特に(4)については一収家族と差がなく、(1-2)(9-5)(9-6)(9-8)では低下どころか一収入家族よりも専担率が大きい。専主担率低下度ではA型に近い。つまりA領域についてはB I型よりもA型に近く、他の領域ではB I型よりも低下度がA型に近い。ここでも(9-5)(9-6)(9-8)の妻専担率は一収入家族の場合より大きい。ただし(9-3)(7)の低下度はA B I両型のどれよりも大きくそのうちではB I型に近い。

家族型間にこのような相違はあるが、大きな傾向の枠内における小さな相違にすぎない。さきに働く妻全数について述べた事、つまり「それぞれの家事項目について独りで担当する妻が甚だしく少くなり、夫または子供の協力助力を得て担当する妻が増加し、また補助的にさへ参加しない妻も幾分増加している」事はすべての家族型に妥当する。

(夫の家事担当) 妻の場合とは逆に夫の家事担当は著しく増大している。ただし妻の場合減少が専担率において最も著しく参加率においてさほどでなかったのと対照的に、夫の家事負担増大は専担率において取るに足らず参加率において最も著しい。(9-8)が唯一の例外) なお主担率もC領域の育児以外の項目(1-1)(9-6)(9-8)を除けば全般的にあまり上昇していない。夫と妻の家事負担程度における変化のいま一つの大きな相違点は、妻の場合変化が専担率と参加率が減少し主担率・協担率・補担率の方が増大するという形をとったのに対して、夫の場合全般的には参加率、補担率と協担率、主担率、専担率の順に小さくなるという程度差はあるものの、担当程度がすべての率において増大して

いることである。つまり妻の家事担当程度の低下は、いままで家事をひとりで行っていたのが夫や子供の協力助力を得るようになったという、いわば担当の質的低下であるのに対して、夫の場合はいままで全く家事をやっていなかった夫があらたに家事遂行に加わるようになり、また今まで補助的にしか参加していなかった夫が協力者として参加するという具合に担当の度合が強まるといういわば担当の量質両面における増大である。

次に領域別または項目別にみる。妻の場合に対応して、夫の担当程度の上昇はABC領域において大きくDEF領域については取るに足らない。この事は妻の場合と同様夫の家事担当程度の領域差を小さくしている。

A領域では既述のような妻の専担率の著しい低下に対して補担率が最も上昇している。B領域特に(1-1)(9-1)(9-2)では協力率が最も大幅に増大、そのうち(1-1)は専・主担率もかなり上昇している。(6-1)では専・主担率が逆に低下し補担率協担率が上昇している。C領域は育児項目とそれ以外で変化の形態がはっきり異なる。育児以外の項目では既述のように妻の専・主担率の減少が大きいのに対応して専・主担率特に主担率がかなり増大している。育児項目では専・主担率は全く一収入家族と同一で、(9-3)では協・補双方、(9-7)では協担率が増大している。DEF領域は妻の担当度の変化の幅が小さかったのに対応して夫の担当度の変化の幅が小さい。

次に家族型間の相違を見る。A型とB型の相違とみなし得るのは、妻の場合に対応して、第一にA型の夫の専・主担率の増大がB型よりも大きい事(B型の夫でどの項目にせよ専主担するものは一収入家族にも共働き家族にも皆無)第二に協担率の増大がB型に大きい事である。B型の夫は全般的にA型B型の夫ほど家事負担を増しておらず担当程度がはるかに小さい。

ただし右のような家族型間の相違も、妻の場合同様に、さきに共働き家族の夫全数についてみられた全般的傾向の枠内における相違にとどまる。

夫婦の家事分担形式における逸脱

以上は夫妻別家事担当程度、担当形式における逸脱をみたのであるが、次には両者の

組合せ。つまり夫婦の分担程度、分担形式における逸脱をみる。これは後にとりあげる夫婦分担類型と密接に関連はしているが原理的には全く別物である。これは夫・妻の全数についての集計結果であるのに対して、分担類型の方は既述のように各家族における分担形式を一一確かめたものを基礎資料とする。

全般的に妻の家事担当の程度が甚だしく低下し夫のそれが著しく増大する。ただしこの低下増大の度合・形式は領域によってかなり相違する。全般的に逸脱はABCの領域において大きくDEFにおいて小さい。A領域では専担する妻が著しく減少、夫の助力を得て担当する妻が最も多く増加し、夫と協力して相当する妻もかなり増加する。これに対応して妻を助ける夫が最も多く増加し、妻と協力する夫がこれについて多く増加、専担主担する夫の増加は取るに足らない。

B領域の(1-1)(9-1)(9-2)でも専担する妻が著しく減少するが、夫の助力を得て主担する妻はそれほど増加せず、夫と協力担当する妻が最も多く増加する。これに対応して妻と協力担当する夫が最も多く増加し、妻を助ける夫の増加はそれほどでない。(6-1)(6-2)では専担する妻の減少がA領域とB領域の上記三項目におけるよりやや少く、夫の助力を得て担当する妻と夫と協力担当する妻が同程度に増加する。夫の側においても妻を助ける夫と妻と協力する夫がほぼ同数増加する。この領域の項目としては唯一つ(1-1)において専担特に主担する夫がやや増加している。

C領域では専担する妻の減少と主担する妻の減少を合算したものは(9-3)を除きAB両領域以上であり、(4)では夫の補助役しかつとめない妻が最も多く増加している。これに対して夫の方では育児項目(9-3)(9-7)以外では専・主担する妻の減少に対応して専・主担する夫、特に主となって担当する夫が著しく増加している。特に(4)(1-2)(9-7)では協担する夫の増加が目ざましく、(5)(8)(1-2)では協担する夫がかなり増加し、(9-3)では協担する夫が同程度に増加している。

DEF領域においては分担度、分担形式にはっきりした変化が見られない。

次に夫婦の家事分担形式を各家族について確かめ類型化した分担類型の頻度が共働き家族と一收入家族でどのように相違するかを前者を基準にして示したのが第六表である。この表は第二表と第四表を比較してつくられた。夫・妻の全数にわたる夫婦別家事担当度における既述のような共働き家族と一收入家族間の相違に対応した相違が両種家族の家事分担類型頻度の間に見られる事をこの表は明示している。つまり共働き家族は一收入家族に比べると全般的に妻専担類型は著しく少く、妻主夫補、夫妻協力、夫主妻補、夫専が多い。その相違はABC領域において大きくDEF領域において小さい。A領域では妻専担型が著しく減少し、妻主夫補型が最も多く増加し夫妻協力型もかなり増加している。B領域の(1-1) (9-1) (9-2) でも妻専担型の減少が甚だしいが、妻主夫補型よりも夫妻協力型の増加が大きい。(6-1) (6-2) では妻専担型の減少はA領域とB領域の前記三項目におけるよりもやや少く、妻主夫補型と夫妻協力型がおよそ同程度に増加している。この領域の項目としては唯一つ(1-1)に夫主妻補型と夫専担型特に前者がやや増加している。C領域のうち(9-3)はむしろB領域の(6-1) (6-2)に似て妻専担型の減少を妻主夫補型と夫妻協力型が半々に代替しており、(9-7)は妻専担型と妻主夫補型がいずれも減少しているのを主として協力型が代替しているが、他の(4) (1-2) (5) (8)では妻専担型ないしは妻専担型と妻主夫補型における減少を協力型・夫主妻補型・夫専担型など夫が半ば以上担当する類型の増加によって代替している点がAB領域と大いに異っている。DEF領域における両種家族間の相違の幅ははるかに狭い。

次に第二表と第四表の比較からは夫婦の家事分担関係における一收入家族と共働き家族のいま一つの重要な違いを知ることができる。夫婦の家事分担類型の分散程度は一收入家族においてよりも共働き夫婦においてはるかに大きい。(X²値の比較から知ることができる。)つまり夫婦の分担形式の家族差が後者においてはるかに大きい。このことは夫婦の分担形式の家族間一性が共働き家族の場合には小さいことを示すものである。この整一性の減少はA領域において最も大きくB領域がこれに次ぎ、EF領域においてははっきりした差がない。CD領域はその中間に位する。

共働き家族における夫妻の家事分担関係

以上はかなり詳しく分析してきた逸脱の結果第三表第四表に示されているような共働き夫婦の家事担当程度・形式が生じているのであるが、次にはこの結果自体の性格を分析しよう。共働き夫婦の家事担当関係が一収入夫婦のそれから逸脱する最大の点は上述から明らかなように要するに妻の家事担当の程度が甚だしく低下し代りに夫のそれが甚だしく増大すること、云いかえれば夫婦の家事担当平等化の方向への大きな移行である。ただし完全な平等化は実現しておらず妻の負担は夫よりかなり大きい。後述する七領域中a—bの五領域、項目にして二〇のうち一七において妻の負担程度が大きく、夫の負担の大きいのはfgの二領域三項目にすぎない。しかも特にabc領域における負担差はかなり著しい。

この平等化は、これも既述から明白なように、主として妻の家事負担の減少、夫妻の協力担当（妻主夫補・夫主妻補・夫妻協力をすべて含めた広義における）の増加の形をとっている。（第五表、第六表及び一収入夫婦の専担率……夫と妻の専担率を合算したもの……と共働き夫婦のそれを並記した第七表参照）

逸脱の今一つの重要な側面は夫婦分担形式の家族間一致の程度という意味での整一性の減少である。

そしてこの平等化・協力化・非整一化は妻の担当度の大きな領域・項目、広義の協力担当の程度の小さい領域・項目、整一性の大きい領域・項目ほど著しいため、夫妻の分担関係についての領域間項目間の相違が小さくなっている。この意味での領域・項目の水準化は第三表第四表を第一表第二表と比べれば分るが一収入夫婦家事領域区分に使用したと同じ基準によって共働き夫婦の家事領域区分を試みることによって一層はつきりする。その基準によればほとんどの妻がひとりで担当している項目がA領域つまり妻の専担領域に属し、六—七割が専担九割前後が専主担する項目がB領域つまり高度に妻主夫従の領域に属するが、共働き家族の場合はこの両領域に属する項目は一つもない。他方（9—8）（6—3）（7）の三項目における夫婦の分担関係は両種の家族の間に大きな違いがない。（前二者はE領域、後者はF領域に属す）かくて一収入家族の場合ABCDの四領域に区分された一六項目（C領域中の項目（8）はE領域へ移行）が共働き家族の場

合はCD二つの領域の枠内に、厳密にはそれよりもさらに狭い枠のうちにひしめいているのである。

この平等化・協力化・水準化・非整一化は共働き家族の家事分担の一収入家族のそれからの逸脱を性格付ける最も重要な点である。この四つは上述からも明白のように密接に関連してはいるが、異った事実に対応した異った概念である。

云うまでもない事であるが、また既にあげた諸表からも明らかなように、平等化・協力化・水準化は完成しておらず、またその程度は領域により項目によって異っている。基準、出発点としての一収入家族の家事分担関係に大きな領域差項目差があつたのであるが、これと平等化・協力化の程度の領域差項目差が組み合わさって共働き家族の家事分担について、一収入家族の場合など明確ではないが、やはり領域区分が可能である。(第四表) まず全項目を夫の専主担率(分担類型でいえば夫専担型と夫妻補型の率の合算)が一三%以上と四・七%以下の二グループに大別、さらに副次的な基準によって前者を二区分後者を四区分して計七領域区分を得る。

aの領域…夫の専主担率四・七%以下の項目のうち妻の専担類型の頻度が他のどの分担類型の頻度よりも大きいもの。
(2) (3-1) (3-2) (6-1) (6-2)。夫の専主担率二・三-四・七%、妻専担類型三四-三九%、妻主夫補の頻度の頻度がこれに次ぎ、夫妻協力類型の頻度よりも大。

b領域…夫の専主担率四・七%以下の項目のうち妻専類型が最大頻度を示さず、妻専・妻主夫補・夫妻協力の型の頻度が接近しているもの。(9-1) (9-2) (9-3)

c領域…夫の専主担率四・七%以下、妻専型が最大頻度を示さない項目のうち協力型が最大頻度を示すもの。(9-4) (9-5) (9-6)。
(9-4)。協力型が五〇%以上。妻専型の頻度はa b領域よりはるかに小さい。

d領域…夫の専主担率一三%以上で妻の専主担率が夫のそれよりも大きい項目のうち、協力型が四〇%以上のもの。
(9-5) (9-6)

e領域…夫の専主担率一三%以上で妻の専主担率が夫のそれよりも大きい項目のうち、協力型が三〇・二%以下のもの

の。(1-1) (1-2) (4) (5)。

f 領域：夫の専主担率一三%以上で妻の専主担率が夫のそれよりも小さい項目のうち、協力型が最も多く四〇%以上を示すもの。(8) (9-8) (6-3)

g 領域：夫の専主担率一三%以上で妻の専主担率が夫のそれよりも小さい項目のうち、妻専型及び妻主夫補型が皆無に近く。夫専型及び夫主妻補型はるかに多いもの。(7)

三、家事分担の決定因素

この調査で得られた資料の分析から今までに明らかになったことは、一収入家族の家事分担の領域差項目差、その家族型差、共働き家族の家事分担の領域差項目差、その家族型差、前者から後者への逸脱としての平等化・協力化・非整一化・水準化、それらの程度の領域差項目差であるが、それらを合せ考えるならば家事分担一般の決定因素を明らかにする目的に向つて、ひいては共働きという事実が夫婦の家事分担関係に及ぼす影響を説明する目的に向つてかなり前進できるだろう。

家事分担の決定因素の究明つまり家事分担様式決定の原因の説明はすべて社会現象の因果関係の説明がそうであるように無限に溯り得る。当然のことであるがここでは因果関係の溯及をこの調査にとって可能な限度にとどめる。具体的に制云えばここでは夫が収入獲得を担当し妻が家にとどまつて家事に当るといふ家事分担の大枠が社会において一般化し度化した時点以後における家事分担の決定因素を問題にする。それ以前に溯る因果追求、上述のような家事分担の大枠がどうして生れたかを跡づける試みはことなつた種類の調査ないし実験を必要とするだろう。

説明は知られている限りの事実に妥当するものであることが望ましく、少くともそのいずれとも矛盾しないものでなければならぬ。この原則をできるだけ守つて今までに明らかになつた諸事実の説明原理をさぐつていこう。

上に限定した時点以後における夫婦の家事分担を決定する最大の因素は云うまでもなく時間、夫妻それぞれが家事遂行

に割くことのできる時間であろう。ただし家事に割り得る時間というのは単に時間の絶対量だけでなく一日のうちに占める位置の限定を伴った時間である。このように限定するのは例えば炊事、社会機関との接触などのように位置のきまつた時間になさるべき家事があるからである。

家事に割り得る時間という概念は内容を明確に規定しにくい概念である。睡眠時間を主とするいわゆる生理生活時間と収入獲得労働時間及び通勤時間を除く全時間と規定しても、それらの時間特に生理生活時間はかなり伸縮可能性をもっているし、さらにこの全時間を家事に割り得る時間とすることは不適当であり最少限収入獲得労働からの疲労を回復する時間、その他にも翌日の勤務を準備する時間をそれから差引くべきであろうが、それらに必要な時間量には個人差があり、その厳密な測定はほとんど不可能であろう。かくて厳密には基本的要素としての家事に割り得る時間の決定にすでに夫と妻の力関係その他の別の要素が参加する。けれども一日二四時間のうち生理時間、収入獲得労働時間、疲労回復に必要な時間を除いた残りを家事に割り得る時間と規定するならば大まかにはそれを測定できるだろう。

この意味での時間が家事分担の最も重要な決定因素であることは調査結果から明らかである。第一に妻の家事に割り得る時間が夫のそれよりもはるかに大きな一収入家族において妻の家事担当が夫のそれとは比較にならぬほど大きい。第二に夫妻の家事に割り得る時間量が等しく少い共働き家族において夫妻の家事負担量がかなり接近している。乏しい時間を持ち寄って家事を遂行しているのである。第三に家事に割り得る時間を多くもつ一収入家族の妻の家事負担量に比べてその時間の少い共働き妻の家事負担量のはるかに少い。要するに一収入家族の家事分担様式から共働き家族のそれへの逸脱の四つの主要側面のうち平等化・協力化が家事負担量の決定因素としての時間の重要性を証拠立てる。

なお家事に割り得る時間の位置も家事分担様式決定に影響することは一収入家族の家事分担の領域差にあらわれている。炊事、食後の片付け、乳幼児の世話、食料品買物、社会機関との接触のように通常収入獲得活動の行わるべき時間内に果さるべき仕事は主として妻の仕事になっているが、学令後の子供の指導や相手、耐久消費財の購入、家具家屋の修理

のように通常の収入活動時間以外にも可能な、または非日常的な家事については妻の負担が前者の場合ほど大きくない。また社会機関との接触が一収入家族では妻主夫従の項目であったものが共働き家族ではむしろ夫主妻従の項目になっていることも、家事に割り得る時間の量だけでなく位置もまた家事分担形式決定に影響力をもつことを示唆している。

家事に割り得る時間だけでは家事分担形式のすべてを説明できない。それは一収入家族における妻の大きな家事負担、共働き家族における夫妻の協力、限定された時間に遂行さるべき家事における一収入家族の妻の大きな負担を説明することはできても、例えば家事分担形式の領域差を説明することができない。ここに第二の決定因素として遂行能力をあげる必要がある。一収入家族の家事分担において遂行能力という因素の作用を最もよく証拠だてるのは家具家屋の修理の項目である。さきに学令後の子供の指導と相手、耐久消費財の購入、家具家屋の修理など通常の収入活動時間外に可能な家事における妻の負担がそれ以外の家事におけるほど大きくない理由として、家事に割り得る時間の位置をあげたが、この因素は前の種類の家事において妻の負担が大きく夫の負担が小さいことは説明できても、後の種類の項目において前者に比べて妻の負担が小さく夫の負担が大きいことを積極的に説明し得るものではない。後の種類の家事を遂行する時間的余裕については一般的に夫婦同一条件とみてよいからである。(妻に他の種の家事遂行からくる疲労があれば夫には収入獲得労働からの疲労、収入活動への準備がある。) 遂行能力がそれを積極的に説明する有力因素であることは(7) 家具家屋の修理の項目について最も明らかである。それが男女の先天的素質に基ずくものか、男は仕事女は家庭という分業に基ずく後天的なものかは今は問題にできない。既に述べたようにここではそのような分業が制度化し一般化した段階以降における因果関係の追求にとどめる。修理に必要な技術的能力及び体力において男がすぐれていることが夫を(7)の主担当者たらしめている主な理由であろう。その他耐久消費財購入、年長の子供の指導と相手などにおいても、一般的にな夫がより広い社会的接触、より広い知識、より高い教養をもっていることが夫の参加を妻のそれに近づけている有力な理由であろう。例えば(9-5)(9-8)の項目に関して、BⅡ型の夫の担当程度がBⅠ型のそれよりも大きいことがそのことを

示唆している。

夫妻の相対的遂行能力の決定因素としての作用はしかし共働き家族における家事領域区分に最もよくあらわれている。そこでは夫妻の家事に割り得る時間が量についても位置についても同一と考えてよいのであるが、そこでも炊事、せんたく及びそれらと関連した家事(3-1)(3-2)(2)(6-1)(6-2)、育児項目(9-1)(9-2)(9-3)など担当の様式(専担主担など)程度において明白に妻の領域に属する項目、修理、耐久財購入、子供を遊びに、社会機関との接触のようになむしろ夫の領域に属する項目、その中間領域の項目が区別されるが、分担形式におけるそのような項目差領域差は項目、領域によって異なる夫妻の相対的遂行能力によって最もよく説明されるだろう。夫妻の家事に割り得る時間の等しい共働き家族においても炊事、せんたく、育児など妻の遂行能力のまさる項目及びそれと関連した項目、(3-1)(3-2)(2)(6-1)(6-2)(9-1)(9-2)(9-3)(9-4)(9-7)については夫の専主担率が皆無または皆無に近い事実、夫妻の能力差のほとんど無いと考えられ、ただ時間的制約が夫の参加を小さくしていた掃除、ふろたぎ、ふとんあげおろし、年長の子供の指導(1-1)(1-2)(4)(5)(9-5)(9-6)において夫の協担、専主担率が大きく増加していること、夫の能力のむしろまさる(6-3)(7)の領域において妻の専主担率が家事時間の減少とともに著しく減少している事実、さらには一収入家族において夫の能力の方が大でありながら時間的制約のため妻が主として担当している(8)の項目(社会機関との接触)が、時間的制約の点で夫妻同一条件にある共働き家族においてむしろ夫が主な担当者に逆転していることなども、夫妻の相対的遂行能力という因素の重要性を証拠だてている。

以上要するに一収入家族において妻の家事負担が大きい事実、共働き家族において夫妻の家事負担が前者におけるよりはるかに平等化している事実、一収入家族において夫が収入活動時間以外の時間だけでは果し得ない家事が妻の仕事となっている事実は家事に割り得る時間という因素によって十分説明でき、それ以外の因素による説明の必要、余地がない。また一収入家族共働き家族のいずれにせよ家事の領域区分は遂行能力という因素を想定することによって一応説明でき

た。

しかし調査から明らかになった今一つの重要な事実、共働き家族においても夫妻の家事負担は完全に平等化しておらず妻のそれがなおかなり大きいという既述の事実以上二つの因素では説明困難である。もっとも家事負担の大小を厳密に測定することはきわめて困難である。厳密には家事労働の時間と密度の積を計算しなければならないだろうが、家事労働は例えば社交・レクリエーション・収入獲得活動など家事活動以外の活動と一体をなしている場合やそれらと同時に遂行されている場合があって、家事労働時間を切りはなして測定することに困難があり、労働密度の測定にいたっては容易に行い難い。この調査で行ったように家事項目を列挙しその分担形式を調べるのが一番実際的であろうが、その場合は家事項目のえらび方によって夫婦の分担割合がいろいろに変わってきて、厳密な分担比の測定はとても望めない。このように分担比の厳密な測定は実際上ほとんど不可能であるが、われわれの調査の場合その資料から共働き家族においても妻の家事負担が夫より大きいと述べることは許されるだろう。

さて一般論としては共働きでも夫の職業の方が勤務時間が長くまた労働密度が大きく、家庭における準備時間や疲労回復時間の大きな仕事であり、したがって共働きでも家事に割き得る時間は夫の方が少いと云えようが、この調査の場合は大部分の共働き夫婦の職業が同一（教職）であること（共働き核家族四三のうち二九つまり六七％）、相違する事例においても妻の職が教職であって勤務時間、労働密度・準備と疲労回復に要する時間のいずれにおいても夫のそれより著しくは小さいと考えられない。（残余の夫一四の職業は会社員六、教員以外の公務員三、無職二、農一、土建一、歯科技工一）もっとも夫の仕事は一生の仕事であって自らのひいては家族全体の社会経済的地位がそれにかかる仕事、打ちこまなければならない仕事であるのに反して妻のそれは一時的または家計補助的な仕事にすぎないという観念からして、また実際に打ちこみ方に差があることからして、夫がより多くの準備と疲労回復時間を取っているということは考えられる。夫妻のこの時間差を調べる必要はあっただろうか、しかしそれだけでこの調査に明らかにされた程度の家事負担差を説明

できるとは考えられない。

次に遂行能力という因素による説明も困難である。共働き家族の家事領域 a—e に属する家事項目は妻がより高度にもつ遂行能力を要し夫によって代行され得ないという説明も考えられるが、掃除・ふろたき・ふとん・日用品買物などは明らかに夫の容易に習得し得ない技術や能力を要しない。またせんとく・炊事・食後の片付け・食料買物・育児などにしても、水道（共働き核家族の九五％に普及）ガス（七九％、石油コンロを含めて九五％）電気釜ガス釜（九五％）洗濯機（八五％）掃除機（五一％）などが普及している以上、それを主担する夫がほとんど無いというほど高度に分化した妻特有の技術を要するとは考えられない。

次に分化した技術の要否とは無関係にともかくも分業、役割分担の明確化が必要だからという説明も考えられるが、それは明らかに分担量の違いを説明することができない。

収入活動の疲労回復、将来とりわけ明日の収入活動のための準備に要する時間が夫の方に大きいだろう事、妻の遂行能力が大きい事のそれぞれは既述のように単独では妻の負担の大きさを説明できるとは思われないが、両者の組合せがそれを説明できるかもしれない。そのこともっと厳密な調査による検証に値するだろうが、しかしその前にこの調査による資料を検証の証拠となし得る他の因素を考えてみるべきであろう。

そのような他の因素の一つとして家族内における夫婦の相対的力が考えられる。ここでは力を関係の一当事者が他方を左右し得る程度と定義する。この力の決定因素、源泉の問題はさておいて、一収入家族の妻の家事負担が著しく大きいのは妻が家事に割り得る時間の大きいことと夫の力の大きいことの合成結果であり、夫妻の家事負担差が共働き家族において縮小しているのは妻の家計への貢献の故にその力が大きくなったためであり、夫と妻の家事に割り得る時間がだいたい等しく妻の力も強くなっている共働き家族においてなお妻の家事負担が大きいのは夫の力がなお妻のそれより大きいためであるという説明が考えられる。

ところが少くともわれわれの調査の結果はこの説明を否定する。調査の一部として、家事の決定者が誰であるかを項目別にかなり詳しく調べたが、家事決定への参加程度は家庭内における力の最も適当な指標であろう。それを指標とする限りこの調査の対象となった夫婦の相対的力は一収入家族と共働き家族の間に相違がなく、いずれにおいてもたい対等である。(調査のこの部分の報告は他の機会にゆずる。他にもっとよい指標があつてそれによって測定すると夫妻の力に差があるという結果が出るということは多分にあり得る。その場合は以下の推論は無効になる。)したがって相対的力を家事分担形式決定の有力な因素と認めることは不可能である。それは一収入家族における夫婦の家事担当差、一収入家族から共働き家族への家事負担平等化、共働き家族になお残る家事負担差のどれも説明できない。

共働き家族においてなお妻の家事負担が夫より明白に大きいことを説明できる決定因素を発見する手がかりがわれわれの得た調査資料のうちにある。(1)「夫に対して家事負担をかけすぎていると思うか思わないか」という共働き妻への資問に対する明確な回答の七六%が「適当と思う」一九%が「負担をかけすぎていると思う」となっており「夫の負担不足」という答えは二例四・八%にすぎない。(2)家事項目ごとに夫の実際の担当程度以外に夫に希望する担当程度をもたずねたが、両者はかだいだい一致している。つまり共働き妻も夫との間にある家事担当程度差を是認しているわけである。この調査事実、一般的に家事は妻の仕事という社会規範、さらには家事領域家事項目ごとに夫妻の特定の分担形式を命ずる社会規範、そのような社会規範の個人における内在化としての家事分担形式についての価値観を家事分担形式の第三の決定因素として示唆する。そしておそらくはこの決定因素は単に共働き家族にも残る夫妻の家事負担差を決定する主要な因素であるにとどまらず、一収入家族における夫妻の甚だしく大きな家事負担差の決定にもいくらかあづかっているだろうし、両種の家族の家事分担形式の領域差の決定にはかなり有力にあづかっているだろう。先に領域区分が逐行能力という決定因素によって一応説明できると一応、という言葉を用いたのはそのためである。つまりこの決定因素は家事に割り得る時間、逐行能力という決定因素とともにどの種の家族の家事分担形式決定にも常に参加していると思われる。この社会規

範及び価値観の形成自体の因果関係はここでは扱わない。^③

この社会規範、価値観を直接とらえる試み、その力を直接に測る試みはこんどの調査では行わなかった。けれどもこの決定因素の存在し作用していることは次のような調査事実を説明することができるといふことによつて推定できる。

- (1) 共働き家族においても夫の家事負担が妻のそれより明白に小さいという既述の事実。
- (2) その事を妻が是認しているという事実。

(3) 家事分担形式の領域差、特に共働き家族における領域差の事実。この事実はさきに夫妻の相対的遂行能力という決定因素によつて一応説明された。けれども一収入家族における領域差はともかくも共働き家族の領域差はそれだけではとても説明できない。

水道・ガス・電気釜・電気洗濯機・新洗剤・インスタント食品など家事労働を容易にする装置・器具・物品の普及している状況においては炊事・洗濯でさへそれほど高度の技術を要しない。したがつて夫と妻の家事に割き得る時間がほとんど等しい共働き家族においてそれら項目にみられる夫妻の負担差をその相対的遂行能力だけで説明するのは困難である。まして食事の片付け・買物などにおける夫妻の負担差をそれによつて説明するのは全く不可能である。それら負担差は性別家事分担の社会規範・価値観によつて最もよく説明できるだろう。

また育児項目が炊事・せんたくと同程度・またはそれ以上に妻に要求される技術・知識を必要とし、また生物学的理由を加えると一層妻の専門的領域であつて当然と考えられるのに一収入家族・共働き家族のいずれにおいても、それへの夫の参加が炊事・せんたくへの参加よりもさらにはそれほどの技術や知識を明らかに必要としない食後の片付け、買物への参加よりもはるかに大きい。このことも、育児への夫の参加が炊事・せんたく・買物等への参加よりも社会規範・価値観による非難が小さいという想定によつて最もよく説明できるだろう。

4 夫婦の家事分担形式の家族差が一収入家族において小さく共働き家族において著しいという事実。さきに整一性の減

少または非整一化という言葉で表現した事実。夫が家を外にし妻が家に留まる生活形態が長い歴史にわたって一般的である結果普遍的な家事分担形式が確立して社会規範化し人々の価値観に深く根を張っている。一収入家族の場合は夫が外、妻が家という生活形態と家事分担に関するこの社会規範・価値観とが調和し、したがって家事分担形式における家族差が小さい。

これに反して共働き夫婦の場合は、夫妻ともに家を外にするという生活形態が家事分担についての社会規範・価値観と矛盾する。ところが共働きという生活形態がまだ新しいため、また共働き夫婦はいまなおマイノリティであるため、また強力な既述の社会規範・価値観からの圧力のために、さらには、公私の社会機関の勤務時間が卑近具体的な例であるが、社会の仕組みが一収入家族の生活形態に適合しているため、共働きという新しい生活形態に適した家事分担形式の普遍的一般的なもの并未だ確立せず、既成の社会規範・価値観と並存する程度に強力な社会規範・価値観によって支持されるにいたっていない。共働き家族の家事分担形式の非整一性はこのような推論によって最もよく説明できるだろう。

われわれの調査対象家族の家事分担形式を決定する因素としては以上の三つの他になお、例えば家事量と家事担当者^①の性別数の比なども考えられる。一収入家族についても共働き家族についても、子供のほとんどすべてが学令前の乳幼児であるBⅠ型の夫の家事負担が、子供がすべて学令以上のBⅡ型の夫の家事負担よりもはつきり大きいという既に明らかにした事実はこの因素によってしか説明できない。けれども少くとも核家族に関する限りこの家族型間の相違は、これも既述のように、一収入家族と共働き家族の間の相違、あるいは家事領域間の相違に比べてはるかに小さく、したがってそれを説明する因素を既にあげた三因素と同列におくことはできない。この因素はむしろ第一の因素、つまり家事に割り得る時間という因素の中にとり入れ、後者をもっと包括的な因素につくりかえるべきかもしれない。

かくて対象夫婦の家事分担関係について明らかにされた主要な諸事実は割り得る時間、遂行能力、社会規範・価値観という三つの因素によって説明できる。したがってこの三つを対象夫婦の家事分担関係の基本的決定因素とみることができ

よう。

云うまでもなくこの三者は単独に作用するものではなく密接な相関において作用する。ただその相互作用については残念ながら推測しか試みることができない。主として未開社会の資料から判断して、体力と育児の必要が夫婦の分業を第一次的に決定した。強い物理的力を要する仕事、長時間にわたって家を離れていることを要する仕事が男の、そうでない仕事が女の仕事になった。つまり広義の遂行能力ないし遂行可能性が発生的には最初に男は外、女は内という性別分業を決定した。いったんこのようになった以後は、時間の因素が働いて、家のながで行わるべき仕事、つまり収入獲得活動を除くいわゆる家事は、夫で十分やれる仕事でも、あるいは夫の方がもっと上手にやれる仕事でも妻の仕事となる。この夫婦分業が行われているうちに遂行能力もそれに対応して分化してくる。そしてその後は能力の因素と時間の因素が絡み合い補強し合い、さらにそこにおそらくは先に定義した意味での夫婦の相対的力の因素が働いて、夫婦分業が固定確立する。以上の過程と併行して夫婦分業に関する社会規範・その内在化としての価値観が形成される。

この制度化した夫婦分業を決定した遂行能力と時間の因素が変化しない因素であるならば、規範と人々の欲求・必要の間に矛盾が起らず、夫婦の分業はこの二因素またはそれに夫婦の相対的力を加えた三因素によって十分に説明される筈である。ところが現実には、この二因素ないし三因素はいずれも可変的な因素である。家事遂行を容易にする装置・器具・物品や家事遂行、特に育児などを助ける社会機関の出現が夫婦の相対的家事遂行能力を変え、社会の経済体制・職業体制における変化、特に労働力需要の質量における変化が妻の内職・パートタイム家庭外勤務・フルタイム家庭外勤務を多くして時間の因素に変化を与え、以上その他の変化が夫婦の相対的力を変え得る。こうした場合夫・妻の欲求や必要と社会規範・価値観の間に対立矛盾が生れ、現実の夫婦分業を説明する因素として社会規範・価値観が加わる。そして実際には時間・遂行能力・力の因素における変化は常在的であるからして、規範・価値観の因素も常に作用していると考えなければならぬ。ただその因素としての力はそれら変化の幅に応じて変る。

註

- ① M. B. Sussman, "Needed Research on the Employed Mother," *Marriage and Family Living* 23 : 4 (November, 1961), pp. 368-369.
- ② N. N. Foote, "New Roles for Men and Women," *Marriage and Family Living*, 23 : 4 (November, 1961), p. 328.
- ③ G. P. Murdock, "Comparative Data on the Division of Labor by Sex," *Social Forces*, 15 : 4, (May, 1931), pp. 551-553.
- R. F. Winch, *The Modern Family*, 1963, p. 395.
- ④ P. G. Herbst *◎ work load index の考え方はこれと類似している*。O. A. Oeser and S. B. Hammond eds, *Social Structure and Personality in a City*, pp. 174-175.
- ⑤ G. P. Murdock, *op. cit.*

第一表 一收入核家族夫・妻別家事担当度 (%)

		妻			夫妻			夫			夫・妻 (各)
		専担率	専主担率	補担率	参加率	協担率	専担率	専主担率	補担率	参加率	
2	洗 濯	90.6	96.2	0.0	100.0	3.8	0.0	0.0	1.9	5.7	53
3-1	炊 事	88.7	98.1	0.0	100.0	1.9	0.0	0.0	7.5	9.4	53
3-2	食 後 片 附 け	81.1	98.1	0.0	100.0	1.9	0.0	0.0	5.7	7.5	53
1-1	屋 内 掃 除	67.9	92.5	0.0	100.0	5.7	0.0	0.0	20.7	26.5	53
9-1	幼児食事の世話	64.5	90.3	0.0	100.0	9.7	0.0	0.0	25.8	35.5	31
9-2	幼児排泄の世話	73.3	93.3	0.0	100.0	6.7	0.0	0.0	20.0	26.7	30
6-1	食 料 買 物	67.9	86.8	1.9	96.2	5.7	3.8	5.7	15.1	26.4	53
6-2	日 用 品 買 物	69.8	86.8	1.9	100.0	9.4	0.0	1.9	15.1	26.4	53
9-3	幼 児 衣 類 着 脱	58.1	90.3	0.0	100.0	9.7	0.0	0.0	29.0	38.7	31
9-7	子供医療の世話	51.2	82.9	0.0	100.0	17.1	0.0	0.0	31.7	48.8	41
4	風 呂 た き	47.1	79.4	2.9	97.1	14.7	2.9	5.9	20.6	41.2	34
1-2	屋 外 掃 除	45.3	79.2	7.5	96.2	9.4	3.8	9.4	30.2	49.1	53
5	ふ と ん 上 げ 下 し	41.5	62.3	1.9	96.2	7.5	1.9	3.8	17.0	50.9	53
8	社会機関との交渉	52.8	64.2	9.4	96.2	18.9	3.8	13.2	9.4	45.3	53
9-4	し つ け	28.6	52.4	2.4	100.0	45.2	0.0	2.4	23.8	71.4	42
9-5	勉 学 指 導	24.0	44.0	16.0	96.0	36.0	0.0	16.0	20.0	72.0	25
9-6	子供の話相手	20.9	39.5	4.7	100.0	55.8	0.0	4.7	18.6	79.1	43
9-8	子供を遊びに	5.0	22.5	17.5	97.5	57.5	2.5	20.0	17.5	95.0	40
6-3	耐 久 財 買 物	9.4	15.1	9.4	88.7	64.2	11.3	20.7	5.7	90.6	53
7	家 具 家 屋 修 理	14.6	14.6	16.7	58.3	27.1	39.6	58.3	0.0	85.4	48

第二表 1 収入核家族家事分担類型分布 (%)

		妻専	妻主夫補	夫妻協力	夫主妻補	夫専	夫妻各	その他	家族実数	\times^2
2	洗濯	90.6	1.9	3.8	0.0	0.0	0.0	3.8	53	330.9
3-1	炊飯	88.7	7.5	1.9	0.0	0.0	0.0	1.9	53	304.5
3-2	食後片付け	81.1	5.7	1.9	0.0	0.0	0.0	11.3	53	281.8
6-1	食料買物	67.9	15.1	5.7	1.9	3.8	0.0	5.7	53	163.2
6-2	日用品買物	69.8	15.1	9.4	1.9	0.0	0.0	3.8	53	175.4
9-1	幼児食事の世話	64.5	25.8	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	31	151.5
9-2	幼児排泄の世話	73.3	20.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	30	188.9
9-3	幼児衣類着脱	58.1	29.0	9.7	0.0	0.0	0.0	3.2	31	124.9
9-7	子供医療の世話	51.2	31.7	17.1	0.0	0.0	0.0	0.0	41	191.4
9-4	しつけ	28.6	23.8	45.2	2.4	0.0	0.0	0.0	42	72.3
9-5	勉学指導	24.0	20.0	36.0	16.0	0.0	0.0	4.0	25	35.7
9-6	子供の話相手	20.9	18.6	55.8	4.7	0.0	0.0	0.0	43	95.2
1-1	屋内掃除	67.9	20.7	5.7	0.0	0.0	0.0	5.7	53	173.2
1-2	屋外掃除	45.3	30.2	9.4	5.7	3.8	0.0	5.7	53	68.7
4	風呂掃除	47.1	23.5	14.7	2.9	2.9	0.0	8.8	34	72.6
5	ふとん上げ下し	41.5	17.0	7.5	1.9	1.9	20.7	9.4	53	78.6
8	社会機関との交渉	52.8	9.4	18.9	9.4	3.8	3.8	1.9	53	84.1
9-8	子供の遊びに	5.0	17.5	57.5	17.5	2.5	0.0	0.0	40	96.3
6-3	耐久的財物理	9.4	5.7	64.2	9.4	11.3	0.0	0.0	53	124.0
7	家具屋修理	14.6	0.0	27.1	16.7	39.6	0.0	2.1	48	44.6

。印……夫婦以外のものも補担、協担、各担している小数例を含む。

第三表 共働き核家族夫・妻別家事担当度 (%)

		妻			夫妻			夫			妻 (各)
		専担率	専主担率	補担率	参加率	協担率	専担率	専主担率	補担率	参加率	実数
2	洗濯事	39.5	69.8	2.3	95.0	16.3	2.3	4.7	27.9	48.8	43
3-1	炊食後片付け	39.5	76.7	2.3	100.0	14.0	0.0	2.3	37.2	53.5	43
3-2	食後片付け	39.5	72.1	4.7	100.0	16.3	0.0	2.3	32.6	51.2	43
1-1	屋内掃除	18.6	48.8	9.3	93.0	30.2	4.7	14.0	30.2	76.7	43
9-1	幼児食事の世話	21.4	57.1	7.1	100.0	35.7	0.0	0.0	28.6	64.3	14
9-2	幼児排泄の世話	30.8	61.5	0.0	92.3	30.8	0.0	0.0	30.8	61.5	13
6-1	食料買物	34.9	72.1	2.3	100.0	20.9	0.0	2.3	34.9	58.1	43
6-2	日用品買物	37.2	69.8	4.7	100.0	23.3	0.0	4.7	27.9	55.8	43
9-3	幼児衣類着脱	28.6	71.4	0.0	86.7	21.4	0.0	0.0	42.9	64.3	14
9-7	子供医療の世話	16.7	41.7	4.2	100.0	50.0	0.0	0.0	25.0	75.0	24
4	風呂掃除	17.4	39.1	26.1	82.6	17.4	8.7	30.7	26.1	73.9	23
1-2	屋外掃除	20.0	35.0	20.0	85.0	27.5	7.5	30.0	15.0	75.0	40
5	ふとん上げ下し	7.0	30.2	14.0	95.3	30.2	4.7	18.6	23.3	90.7	43
8	社会機関との交渉	17.5	25.0	20.0	87.5	40.0	12.5	32.5	5.0	80.0	40
9-4	しつけ	9.1	36.4	0.0	95.5	54.5	0.0	0.0	27.3	81.8	22
9-5	勉強指導	13.3	46.7	13.3	100.0	40.0	0.0	13.3	33.4	86.7	15
9-6	子供の話し相手	9.1	27.3	22.7	100.0	50.0	0.0	18.2	18.2	86.4	22
9-8	子供の遊びに	8.7	17.4	30.4	95.7	43.5	0.0	30.4	8.7	87.0	23
6-3	耐久財買物	2.3	4.7	11.6	88.4	69.8	11.6	23.3	2.3	97.7	43
7	家具家屋修理	2.4	2.4	34.1	68.3	31.7	29.3	63.4	0.0	97.6	41

第四表 共働き核家族家事分担類型分布 (%)

	妻専	妻主夫補	夫妻協力	夫主妻補	夫専	夫妻各	その他	家族実数	x ²
2 洗濯事	39.5	27.9	16.3	2.3	2.3	0.0	11.7	43	62.5
3-1 炊爨	39.5	37.2	14.0	2.3	0.0	0.0	7.0	43	77.4
3-2 食後片付け	39.5	30.2	16.3	2.3	0.0	0.0	11.6	43	68.8
6-1 食料買物	34.9	34.9	20.9	2.3	0.0	0.0	7.0	43	62.6
6-2 日用品買物	37.2	27.9	23.3	4.7	0.0	0.0	7.0	43	52.5
9-1 幼児食事の世話	21.4	28.6	35.7	0.0	0.0	0.0	14.3	14	63.9
9-2 幼児排泄の世話	30.8	30.8	30.8	0.0	0.0	0.0	7.7	13	62.0
9-3 幼児衣類着脱	28.6	42.9	21.4	0.0	0.0	0.0	7.1	14	75.3
9-7 子供医療の世話	16.7	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	8.3	24	93.5
9-4 しつ	9.1	27.3	54.5	0.0	0.0	0.0	9.1	22	119.7
9-5 勉学の指導	13.3	33.3	40.0	13.3	0.0	0.0	0.0	15	53.9
9-6 子供の話相手	9.1	18.2	50.0	18.2	0.0	0.0	4.5	22	74.9
1-1 屋内掃除	18.6	30.2	30.2	9.3	4.7	2.3	4.7	43	28.9
1-2 屋外掃除	20.0	15.0	27.5	20.0	7.5	2.5	7.5	40	11.9
4 風呂たき	17.4	21.7	17.4	21.7	8.7	0.0	13.0	23	6.5
5 ふとん上げ下し	7.0	23.3	30.2	14.0	4.7	18.6	2.3	43	28.5
8 社会機関との交渉	17.5	5.0	40.0	20.0	12.5	2.5	2.5	40	35.1
9-8 子供を遊びに	8.7	8.7	43.5	30.4	0.0	4.3	4.3	23	70.9
6-3 耐久財買物	2.3	2.3	69.8	11.6	11.6	2.3	0.0	43	166.4
7 家具家屋修理	2.4	0.0	31.7	34.1	29.3	0.0	2.4	41	58.9

。印…夫婦以外のものも協担、各担している例を含む

第五表 共働き核家族と1収入核家族夫・妻別家事担当度比較 (%) (共働き) - (1収入)

妻					夫 妻		夫		
	専 担 率	専主担率	補担率	参 加 率	協担率	専担率	専主担率	補 担 率	参加率
2 洗 濯	- 51.1	- 26.4	2.3	- 4.7	12.5	2.3	4.7	26.0	43.1
3-1 炊 事	- 49.2	- 21.4	2.3	0.0	12.1	0.0	2.3	29.7	44.1
3-2 食 後 片 附 け	- 41.6	- 26.0	4.7	0.0	14.4	0.0	2.3	26.9	43.7
1-1 屋 内 掃 除	- 49.3	- 43.7	9.3	- 7.0	24.5	4.7	14.0	9.5	50.3
9-1 幼 児 食 事 の 世 話	- 43.1	- 33.2	7.1	0.0	26.0	0.0	0.0	2.8	28.8
9-2 幼 児 排 泄 の 世 話	- 42.5	- 31.8	0.0	- 7.7	24.1	0.0	0.0	10.8	34.8
6-1 食 料 買 買 物	- 33.0	- 14.7	0.4	3.8	15.2	- 3.8	- 3.4	19.8	31.7
6-2 日 用 品 買 買 物	- 32.6	- 17.0	2.8	0.0	13.9	0.0	2.8	12.8	29.4
9-3 幼 児 衣 類 着 脱	- 29.5	- 18.9	0.0	- 13.3	11.7	0.0	0.0	13.9	25.6
9-7 子 供 医 療 の 世 話	- 34.5	- 41.2	4.2	0.0	32.9	0.0	0.0	6.7	26.2
4 風 呂 た 掃 除	- 29.7	- 40.3	23.2	- 14.5	2.7	5.8	24.8	5.5	32.7
1-2 屋 外 掃 除	- 25.3	- 44.2	12.5	- 11.2	18.1	3.7	20.6	- 15.2	25.9
5 ふ と ん 上 げ 下 し	- 34.5	- 32.1	12.1	- 0.9	22.7	2.8	14.8	6.3	39.8
8 社 会 機 関 と の 交 渉	- 35.3	- 39.2	10.6	- 8.7	21.1	8.7	19.3	- 4.4	34.7
9-4 し つ け	- 19.5	- 16.0	- 2.4	- 4.5	9.3	0.0	- 2.4	3.5	10.4
9-5 勉 学 指 導	- 10.7	2.7	- 2.7	4.0	4.0	0.0	- 2.7	13.4	14.6
9-6 子 供 の 話 相 手	- 11.8	- 12.2	18.0	0.0	- 5.8	0.0	13.5	- 0.4	7.3
9-8 子 供 を 遊 び に	3.7	- 5.1	12.9	- 1.8	- 14.0	- 2.5	10.4	- 8.8	- 8.0
6-3 耐 久 財 買 買 物	- 7.1	- 10.4	2.2	- 0.3	5.6	0.3	2.6	- 3.4	7.1
家 具 家 屋 修 理	- 12.2	- 12.2	17.4	10.0	4.6	- 10.3	5.1	0.0	12.2

第六表 共働き核家族と1収入核家族の事族担類型布分比較

(共働き) — (1収入)

	妻専	妻主夫補	夫妻協力	夫主妻補	夫専	夫妻各	その他
2 洗濯事	-51.1	26.0	12.5	2.3	2.3	0.0	7.9
3-1 炊事	-49.2	29.7	12.1	2.3	0.0	0.0	5.1
3-2 食後片付け	-41.6	24.5	14.4	2.3	0.0	0.0	5.3
1-1 屋内掃除	-49.3	9.5	24.5	9.3	4.7	2.3	-1.0
9-1 幼児食事の世話	-43.1	2.8	26.0	0.0	0.0	0.0	14.3
9-2 幼児排泄の世話	-52.5	10.8	24.1	0.0	0.0	0.0	7.7
6-1 食料買物	-33.0	19.8	15.2	0.4	-3.8	0.0	1.3
6-2 日用品買物	-32.6	12.8	13.9	2.8	0.0	0.0	3.2
9-3 幼児衣類着脱	-29.5	13.9	11.7	0.0	0.0	0.0	3.9
9-7 子供医療の世話	-34.5	-6.7	32.9	0.0	0.0	0.0	8.3
4 風呂掃除	-29.7	-1.8	2.7	18.8	5.8	0.0	4.2
1-2 屋外掃除	-25.3	-15.2	18.1	14.3	3.7	2.5	1.8
5 ふとん上げ下し	-34.5	6.3	22.7	12.1	2.8	2.1	-7.1
8 社会機関との交渉	-35.3	-4.4	21.1	10.6	8.7	-1.3	0.6
9-4 しつけ指導	-19.5	3.5	9.3	-2.4	0.0	0.0	9.1
9-5 勉学指導	-10.7	13.3	4.0	-2.7	0.0	0.0	-4.0
9-6 子供の話相手	-11.8	-0.4	-5.8	13.5	0.0	0.0	4.5
9-8 子供を遊びに	3.7	-8.8	-14.0	12.9	-2.5	4.3	4.3
6-3 耐久財買物	-7.1	-3.4	5.6	2.2	0.3	2.3	0.0
7 家具家屋修理	-12.2	0.0	4.6	17.4	-10.3	0.0	0.3

第七表 専担率 (妻専担率・夫専担率)

	1収入	共働き
2 洗濯事	90%	41%
3-1 炊事	88	39
3-2 食後片付け	81	39
1-1 屋内掃除	67	23
9-1 幼児食事の世話	64	21
9-2 幼児排泄の世話	73	30
6-1 食料買物	71	34
6-2 日用品買物	69	37
9-3 幼児衣類着脱	58	28
9-7 子供医療の世話	51	16
4 風呂掃除	50	26
1-2 屋外掃除	49	27
5 ふとん上げ下し	43	11
8 社会機関との交渉	56	30
9-4 しつけ指導	28	9
9-5 勉学指導	24	13
9-6 子供の話相手	20	9
9-8 子供を遊びに	7	8
6-3 耐久財買物	20	13
7 家具家屋修理	54	31